

# 組み体操事故 566件

## 17年度県内 3年連続全国最多

2017年度に、県内の小中学校で発生した組み体操中の事故件数は566件と前年度より35件減ったが、3年連続で全国最多となったことが、大阪経済大の西山豊教授の調査でわかった。組み体操の事故は15年に全国的に問題となり、実施が盛んな県内でも安全確保策が強化されたが、子どもの体力の低下もあり対策は難しくなっている。(畑夏月)

### 大経大教授調査

相関関係がない」として、ほかの自治体で広がっているピラミッドやタワーの段数制限を行っていない。事故の原因として多いのは、補助倒立や、肩の上に人を乗せる2人技の「電柱」、

太ももの上に人を乗せる「サボテン」など単純な技だという。

組み体操では、同じ技を同じタイミングで行うことが求められるが、子どもの体力は低下しており、個人差も拡大している。18年度の全国体力テストでも、県内の中2男女、小5男女のいずれも全国順位が40位台と低かった。

西山教授は「事故を防ぐには指導できる教員の育成、十分な練習時間の確保が必要だ」と指摘する。

西山教授は、日本スポーツ振興センター(東京)が保有する、児童や生徒が負傷した場合に医療費が支払われる「災害共済給付」の件数データから、組み体操の事故件数を算出した。

それによると、県内の児童・生徒1万人に対する負傷人数は12・8人で前年度より0・7人減ったが、全国平均(4・5人)を大きく上回ったうえ、全国順位も前年度の2位(1位は鳥取県)から1位上がった。

組み体操を巡ってはスポーツ庁が16年3月に安全確保

の徹底を通知した。それ以降、全国では多くの学校が実施自体を取りやめたが、県内の公立の小中学校(神戸市を除く)では約8割が組み体操を実施しているという。3年連続全国ワーストという結果について、県教委は「盛んな分、事故が多い面もあるが、重く受け止めたい」とする。県教委は「段数とけがに